

令和 5 年度半田市低所得者の子育て世帯に対する給付金（子ども加算）
支給事務実施要綱

（目的）

第 1 条 この要綱は、エネルギー・食料品価格等の物価高騰により、特に家計への影響が大きい低所得者の子育て世帯の生活を支援するため、臨時的な措置として実施する、令和 5 年度半田市低所得者の子育て世帯に対する給付金（子ども加算）支給事業（以下「本事業」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（支給対象者）

第 2 条 令和 5 年度半田市低所得者の子育て世帯に対する給付金（子ども加算）（前条の目的を達するために、半田市（以下「市」という。）によって贈与される給付金をいう。以下「子ども加算給付金」という。）の支給対象者は、令和 5 年 1 2 月 1 日（以下「基準日」という。）において、市の住民基本台帳に記録されている者（基準日以前に、住民基本台帳法（昭和 4 2 年法律第 8 1 号）第 8 条の規定により住民票を削除されていた者で、基準日において、日本国内で生活していたが、いずれの市区町村の住民基本台帳にも記録されておらず、かつ、基準日の翌日以後初めて市の住民基本台帳に記録されることとなったものを含む。）であって、次項に規定する対象世帯の世帯主とする。

2 対象世帯は、各号のいずれかに該当する世帯とする。

（1）基準日における世帯のうち、令和 5 年度半田市住民税非課税世帯等臨時特別追加給付金の給付対象となる世帯

（2）令和 5 年度半田市住民税均等割のみ課税世帯に対する臨時特別給付金の給付対象となる世帯

（支給額）

第 3 条 前条の規定により支給対象者への子ども加算給付金の支給額は、基準日以降において、市の住民基本台帳に前条の支給対象者と同一の世帯に記録されている、平成 17 年 4 月 2 日以降の出生者数に 5 万円を乗じた額とする。

2 前項の規定に関わらず、半田市長（以下「市長」という。）が基準日以降に平成 17 年 4 月 2 日以降の出生者数を扶養していると認めた場合の支給対象者への支給額は、平成 17 年 4 月 2 日以降の出生者数に 5 万円を乗じた額とする。

（受給権者）

第 4 条 子ども加算給付金の受給権者は、第 2 条の規定により支給対象となる世帯の世帯主とする。ただし、当該世帯主が基準日以降に死亡した場合において、他の世帯構

成者がいるときは、その中から新たに当該世帯の世帯主となった者（これにより難い場合は、死亡した世帯主以外の世帯構成者のうちから選ばれた者）とする。

- 2 配偶者やその他親族からの暴力等を理由に避難している者並びに児童福祉法（昭和22年法律第164号）、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）、知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）及び老人福祉法（昭和38年法律第133号）に定める措置を受けた者等の特別な配慮を要する者の取扱いについては、別記のとおりとする。

（支給の方法等）

第5条 市は、令和5年度半田市住民税非課税世帯等臨時特別追加給付金及び令和5年度半田市住民税均等割のみ課税世帯に対する臨時特別給付金を金融機関への口座に振り込む方式で支給した第3条に掲げる世帯の世帯主に対し、当該口座へ振り込む旨を書面により通知する。

- 2 前項による支給対象者は、同項に規定の通知を受けた際、市長に対して受給の拒否又は口座の変更を申し出ることができる。

- 3 市長は、別に規定する日までに前項の届出がないときは、受給を承諾したこととみなし、速やかに支給を決定し、支給対象者を支給する。

- 4 第1項に規定する通知の対象外の世帯及び同項に規定する通知に記載の金融機関への口座への振り込みが不能となった世帯は、市の窓口で現金による支給を受けることができる。

- 5 第1項に掲げる世帯以外で子ども加算給付金の支給を受けようとする者は、子ども加算給付金申請書（請求書）（以下「申請書」という。）の提出による申請により行う。

- 6 申請書の提出は郵送により行い、申請書による申請に基づく支給は、次の各号に掲げる方式のいずれかにより行う。この場合、第3号に掲げる方式は、申請者が金融機関に口座を開設していないこと、金融機関から著しく離れた場所に居住していることその他第1号又は第2号による支給が困難な場合に限り行う。

（1）郵送申請方式 申請者が申請書を郵送により市に提出し、市が申請者から通知された金融機関の口座に振り込む方式

（2）窓口申請方式 申請者が申請書を市の窓口に出し、市が申請者から通知された金融機関の口座に振り込む方式

（3）窓口現金受領方式 申請者が申請書を郵送により、又は市の窓口において市に提出し、市が当該窓口で現金を交付することにより支給する方式

- 7 申請書の提出に当たっては、公的身分証明書の写し等を提出又は提示すること等により、当該申請書を提出する本人によるものであることを証する。

(代理による申請等)

第 6 条 申請者に代わり、代理人として前条第 5 項の規定による申請書の提出により支給の申請を行うことができる者は、原則として次の各号に掲げる者に限る。

- (1) 基準日時点での受給権者（第 4 条に規定する受給権者をいう。以下同じ。）が属する世帯の世帯構成者
- (2) 受給権者の法定代理人（親権者、未成年後見人、成年後見人、代理権付与の審判がなされた保佐人及び代理権付与の審判がなされた補助人）
- (3) 親族その他の平素から申請者本人の身の回りの世話をしている者等で市長が特に認める者

2 代理人が申請書の提出をするときは、申請書の代理人記入欄への記載を、申請書の提出により支給の申請をするときは、当該代理人は申請書に加え、原則として委任状を提出する。この場合において、市長は、代理人の公的身分証明書の写し等の提出又は提示を求めること等により、代理人が当該代理人本人であることを確認するものとする。

3 市長は、当該代理人が第 1 項第 1 号に規定する者に該当する場合にあっては、住民基本台帳により、同項第 2 号及び第 3 号に規定する者に該当する場合にあっては、市長が別に定める方法により、代理権を確認するものとする。

(申請書の申請期限)

第 7 条 申請書の申請期限は、令和 6 年 9 月 3 0 日とする。

(支給の決定等)

第 8 条 市長は、第 5 条の規定により提出のあった申請書を受理したときは、速やかに支給の決定の上、当該支給対象者に対し子ども加算給付金を支給する。

(子ども加算給付金の支給等に関する周知等)

第 9 条 市長は、本事業の実施に当たり、支給対象者の要件、申請の方法、申請受付開始日等の本事業の概要について、広報その他の方法による市民への周知を行う。

(申請が行われなかった場合等の取扱い)

第 1 0 条 市長が前条の規定による周知を行ったにもかかわらず、支給対象者から第 7 条の提出期限までに第 5 条の規定による申請書の提出が行われなかった場合、支給対象者が子ども加算給付金の支給を受けることを辞退したものとみなす。

2 申請書の不備等があり、市長が確認等に努めたにもかかわらず、第 7 条の申請期限までに申請書の補正が行われず、市長が第 8 条の規定による確認又は支給の決定を行うことができない場合、その後の支給が完了しない場合等、支給対象者の責に帰すべき事由により支給ができなかったときは、申請書の提出による手続きが取り下げられたものとみなす。

(不当利得等の返還)

第 1 1 条 市長は、偽りその他不正の手段により子ども加算給付金の支給を受けた者、又は、子ども加算給付金の支給を受けた後、支給の対象世帯に属する世帯主を含む世帯に対しては、子ども加算給付金の返還を求めるものとする。

(受給権の譲渡又は担保の禁止)

第 1 2 条 子ども加算給付金の受給権者は、当該給付金の支給を受ける権利を譲り渡し、又は担保に供してはならない。

(その他)

第 1 3 条 この要綱の実施のために必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和 6 年 3 月 1 1 日から施行する。
- 2 この要綱は、令和 6 年 9 月 3 0 日限り、その効力を失う。

別記（第4条関係）

1 配偶者やその他親族からの暴力等を理由とした避難事例の取扱い

（1） 次の①又は②に掲げる事例であって、かつ、（2）の申出者の満たすべき一定の要件を満たしており、その旨を申し出た場合、当該申出を行った者（以下「申出者」という。）に対して、基準日時点で申出者が市内に居住実態はあるが住民票が所在しない場合にも、当該申出者の加算給付金について市から支給する。

- ① 配偶者からの暴力等を理由に避難し、配偶者と生計を別にしてしている者（婦人相談所一時保護所（一時保護委託契約施設を含む。以下同じ。）又は婦人保護施設の入所者の暴力被害が、当該入所者の親族（配偶者を除く。以下同じ。）など、当該入所者が属する世帯の者が加害者であって、当該親族と生計を別にしてしている入所者を含む。）及びその同伴者であって、基準日において市内に住民票を移していない者
- ② 親族からの暴力等を理由とした避難事例で、親族からの暴力等を理由に避難している者が自宅には帰れない事情を抱えているもの

（2） 申出者の満たすべき一定の要件は、次の①から④までに掲げる要件のいずれかを満たすものとする。

- ① 申出者の配偶者に対し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（平成13年法律第31号）第10条に基づく保護命令（同条第1項第1号に基づく接近禁止命令又は同項第2号に基づく退去命令）が出されていること。
- ② 婦人相談所による「配偶者からの暴力の被害者の保護に関する証明書」（親族からの暴力を理由に婦人相談所一時保護所又は婦人保護施設に入所している者に婦人相談所により発行される「配偶者からの暴力の被害者の保護に関する証明書」と同様の内容が記載された証明書を含む。）が発行されていること。

なお、婦人相談所以外の配偶者暴力対応機関（配偶者暴力相談支援センター、福祉事務所及び市町村における配偶者暴力相談支援担当部署）や行政機関や関係機関と連携してDV被害者支援を行っている民間支援団体（婦人保護事業委託団体、地域DV協議会参加団体、補助金等交付団体）が発行した申請書も、上記証明書と同様のものとして取扱う。

- ③ 基準日の翌日以降に住民票が居住市町村へ移され、住民基本台帳事務処理要領（昭和42年自治振第150号等自治省行政局長等通知）に基づく支援措置の対象となっていること。
- ④ ①から③までに掲げる場合のほか、申出者と住民票上の世帯との間に生活の一体性がないと認められる場合

※ 婦人保護施設等に申出者が児童とともに入所している場合で、申出者の配偶者に対

して当該児童への接見命令が発令されている場合など、当該取扱いの趣旨を踏まえ、明らかに申出者と住民票上の世帯との生計が同一ではないと判断することができる場合を含む。

2 措置入所等児童の取扱い

基準日において市内に居住実態があり、かつ、以下の（１）から（６）までのいずれかに該当する児童（児童（基準日時点で満１８歳に満たない者をいう。以下同じ。）及び児童以外の者（基準日時点で原則として満２２歳に達する日の属する年度の末日までにある者（疾病等やむを得ない事情による休学等により、当該年度の末日を越えて在学している場合を含む。））及び（６）における母子生活支援施設の入所者を含む。以下同じ。）については、市における申請・受給権者とする。

- （１） 児童福祉法（昭和２２年法律第１６４号）第２７条第１項第３号の規定により同法第６条の３第８項に規定する小規模住居型児童養育事業を行う者又は同法第６条の４に規定する里親に委託されている児童（保護者（児童福祉法第６条に規定する保護者をいう。（２）において同じ。）の疾病、疲労その他の身体上若しくは精神上又は環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難となったことに伴い、２月以内の期間を定めて行われる委託をされている児童を除く。）
- （２） 児童福祉法第２７条第１項第３号の規定により入所措置が採られて同法第４２条に規定する障害児入所施設（以下「障害児入所施設」という。）に入所し、若しくは同法第２７条第２項の規定により同法第６条の２の２第３項に規定する指定発達支援医療機関（以下「指定発達支援医療機関」という。）に入院し、又は同法第２７条第１項第３号若しくは第２７条の２第１項の規定により入所措置が採られて同法第３７条に規定する乳児院、同法第４１条に規定する児童養護施設、同法第４３条の２に規定する児童心理治療施設若しくは同法第４４条に規定する児童自立支援施設（以下「乳児院等」という。）に入所している児童（当該児童心理治療施設又は児童自立支援施設に通う者、２月以内の期間を定めて行われる障害児入所施設への入所又は指定発達支援医療機関への入院をしている者及び保護者の疾病、疲労その他の身体上若しくは精神上又は環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難となったことに伴い、２月以内の期間を定めて行われる乳児院等への入所をしている児童を除く。）
- （３） 身体障害者福祉法（昭和２４年法律第２８３号）第１８条第２項若しくは知的障害者福祉法（昭和３５年法律第３７３号）第１６条第１項第２号の規定により入所措置が採られて障害者支援施設（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成１７年法律第１２３号）第５条第１項

に規定する障害者支援施設をいう。)又はのぞみの園(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法(平成14年法律第167号)第11条第1号の規定により独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が設置する施設をいう。)に入所している児童(2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除き、18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者のみで構成する世帯に属している者に限る。)

(4) 生活保護法(昭和25年法律第144号)第30条第1項ただし書の規定により同法第38条第2項に規定する救護施設、同条第3項に規定する更生施設若しくは同法第30条第1項ただし書に規定する日常生活支援住居施設に入所し、又は売春防止法(昭和31年法律第118号)第36条に規定する婦人保護施設に入所している児童(2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者及び一時保護委託がされている者を除き、18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者のみで構成する世帯に属している者に限る。)

(5) 児童福祉法第25条の7第1項第3号の規定により同法第6条の3第1項に規定する児童自立生活援助事業における住居に入居している児童等(2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除き、児童以外の者にあつては、同法の規定及び「社会的養護自立支援事業等の6実施について」により、入居している者に限る。)

(6) 児童福祉法第23条第1項の規定により同法第38条に規定する母子生活支援施設(以下「母子生活支援施設」という。)に入所している者(2月以内の期間を定めて行われる入所をしている者を除く。)

3 入所措置等が執られている障害者・高齢者の取扱い

以下の(1)又は(2)のいずれかに該当する「措置入所等障害者」及び「措置入所等高齢者」(以下「措置入所等障害者・高齢者」という。)であつて、基準日において、市の住民基本台帳に記録されている者については、市における申請・受給権者とする。ただし、市で入所等の措置を講じ、措置入所等担当課から給付金担当課に対して、施設所在市区町村に住民票を移していない措置入所等障害者・高齢者に関する情報提供が行われた場合、当該措置入所等障害者・高齢者に支給する。

(1) 「措置入所等障害者」とは、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第18条第1項若しくは第2項又は知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第15条の4若しくは第16条第1項第2号の規定による措置が執られている者(措置施設入所者や措置入所に準ずるものとして措置権者が適当と認める者(成年後見人、代理権付与の審判がされた保佐人及び代理権付与の審判がされた補助

人が選任されている者等を含む。)を含む。以下同じ。(2か月以内の期間を定めて行われる入所等をしている者を除く。))

(2)「措置入所等高齢者」とは、老人福祉法(昭和38年法律第133号)第10条の4第1項及び第11条第1項の規定による入所等の措置等が執られている者(2か月以内の期間を定めて行われる入所等をしている者を除く。)

4 無戸籍者の取扱い

現に住民基本台帳に記録されていない者であって、基準日時点において市内に居住実態があり自己又はその未成年の子等が無戸籍であると市に申し出た者について、法務局等において無戸籍者として把握していることを半田市長が相当と認めるときは、市における申請・受給権者とする。

令和5年度低所得者の子育て世帯に対する給付金(子ども加算)
申請書(請求書)
(申請を必要とする世帯の場合)

支給市区町村(※令和5年12月1日時点の市区町村)
半田市長 殿



2ページ目の【誓約・同意事項】を全て確認しチェックしました。全ての内容に誓約・同意の上、申請します。

1. 申請・請求者(世帯主)

(フリガナ) 氏名	性別	生年月日	現住所
	男・女	大正・昭和・平成・令和 年 月 日	電話 ()

2. 子ども加算給付金の対象となる児童の状況

- 下記の平成17年4月2日以降に出生した児童(以下「対象児童」という。)について記載してください。
 ・令和5年12月1日(以下、「基準日」という。)時点で世帯主の世帯に属する対象児童
 ・基準日時点で世帯主と生計同一である対象児童のみで構成される別世帯に属する対象児童
 ・基準日以降に出生した世帯主の世帯に属する新生児

	(フリガナ) 氏名	申請者との続柄	性別	個人番号	同居・別居	別居の場合のみ住所を記入
				生年月日		
1				平成・令和 年 月 日	同居・別居	
2				平成・令和 年 月 日	同居・別居	
3				平成・令和 年 月 日	同居・別居	
4				平成・令和 年 月 日	同居・別居	
5				平成・令和 年 月 日	同居・別居	

3. 振込口座(原則、1. の申請・請求者名義の口座)

下記の口座への振込を希望します。(通帳等の写しが必要。長期間入出金のない口座を記入しないでください。)

【受取口座記入欄】

金融機関名	支店名	分類	口座番号 (右詰めでお書きください。)	口座名義(カナ) ※「1. 申請・請求者」名義に限る。 ※通帳の表記に合わせてください。
金融機関コード	支店コード	1普通 2当座		

ゆうちょ銀行	通帳記号 (6桁目がある場合は) ※欄にご記入下さい	通帳番号 (右詰めでご記入下さい)	口座名義(カナ) ※通帳の表記に合わせて下さい
ゆうちょ銀行を選択された場合は、貯金通帳の見開き左上またはキャッシュカードに記載された記号・番号をご記入下さい。	1		

世帯主(申請者)名義の公金受取口座への振込を希望します。(通帳等の写しは不要。)

※ 金融機関の口座がない方、金融機関から著しく離れた場所に住んでいる方など、どうしても口座による受け取りが出来ない方は、半田市臨時特別給付金事業実施本部(電話0569-84-0600)にお問い合わせください。

裏面も必ずご確認ください

【誓約・同意事項】 ※全ての項目を確認し、□にチェック(レ)してください。

以下の全ての誓約・同意事項について確認し、誓約・同意します。

令和5年度低所得者の子育て世帯に対する給付金(子ども加算)の支給要件(※)に該当します。

※ 給付金(子ども加算)の支給対象となるためには、以下の要件を全て満たすことが必要です。

- ① ア 世帯の全員が、令和5年度住民税非課税または均等割のみ課税の世帯である。
イ 世帯の全員が、令和5年度住民税均等割が課されている他の親族等の扶養を受けている世帯ではない。
(注)住民税における取扱いとして、扶養を受けているか分からないときは、両親や子ども等、家族に確認してください。
ウ 世帯の中に、租税条約による免除の適用を届け出ている者はいない。
- ② 世帯の中に、住民税課税となる所得があるのに未申告である者はいません。
- ③ 令和5年12月1日以降に、同様の給付金の支給を受けた世帯又は当該世帯の世帯主若しくは世帯員であった者のみで構成される世帯ではありません。
- ④ 給付金(住民税均等割のみ課税世帯分)の支給要件の該当性等を審査等するため、市区町村が必要な住民基本台帳情報、税情報等の公簿等の確認を行うことや必要な資料の提供を他の行政機関等に求める・提供することに同意します。
- ⑤ 公簿等で確認できない場合は、関係書類の提出を行います。
- ⑥ この申請書は、市区町村において支給決定をした後は、給付金(住民税均等割のみ課税世帯分)の請求書として取り扱います。
- ⑦ 市区町村が支給決定をした後、申請書(請求書)の不備による振込不能等の事由により支払が完了せず、かつ、令和6年9月30日までに、市区町村が申請・請求者に連絡・確認できない場合に、給付金(住民税均等割のみ課税世帯分)が支給されないことに同意します。
- ⑧ 給付金の支給後、本申請書の記載事項について虚偽であることが判明した場合や給付金の支給要件に該当しないことが判明した場合には、給付金を返還します。

提出書類

令和5年度低所得者の子育て世帯に対する給付金(子ども加算)申請書(請求書)
(申請を必要とする世帯の場合)(本書)

※ 必要事項をご記入ください。

『申請・請求者本人確認書類の写し(コピー)』

※ 申請・請求者の運転免許証、健康保険証、マイナンバーカード(表面)、年金手帳、介護保険証、パスポート等の写し(コピー)をご用意ください。

『受取口座を確認できる書類の写し(コピー)』

※ 通帳やキャッシュカードの写し(コピー)など、受取口座の金融機関名・口座番号・口座名義人を確認できる部分の写し(コピー)をご用意ください。

本市以外に居住する児童全員の住民票

※ マイナンバーを表示しないもの

※【誓約・同意事項】のチェック漏れや、添付書類の不備はありませんか。(チェック漏れや添付書類の不備がある場合、給付を受けられません。)

本申立ての内容に相違ありません。

令和 年 月 日 申請者氏名